

# 木知原の今昔!

52号:24・12・6

いっしょに

「茶釜の中が明るくなるまで・・・」  
どこかで聞いた“格言?”

**御台所** (みだいどころ) や **台盤所** (たいばんじょ) は時代劇でよく聞く言葉。まずは語源から…  
□ 「台所」の「台」は「台盤」(食物を盛った盤を乗せる台)のことで、高貴な家庭では「御台」と言われた。その「台盤・御台」が置いてある「所(部屋・空間)」を「御台所・台盤所」と呼ぶようになった。それらが転じて庶民の間で言う「台所」となったようである。

👉 将軍の正室(貴人の妻)を「御台所」と呼ぶは、台所を取り締まる総責任者からの呼称。

※言葉は“読みも意味も時代とともに変わっていく”その代表的な例でしょう。

**台所** (だいどころ)。近年余り聞かれなくなったが貴家ではどうですか。

👉 間取り図の続編として台所の主役であった「くど」周囲の器具をまとめてみた。

□ 昭和30年頃まではどの農家もほぼ下図の仕様が定番であり懐かしく感じる方も多いと思うが!



□ 写真のような洗い場を「かわど」と言っていたが辞書には無い。  
👉 当て字で「川戸・川処」と表記しているが語源も漢字表記も不明である。  
👉 「川だな・川たな」は方言としてあるが木知原ではふつうに「カワド」と言っていた? 誰か! 教えて!

※アルミ鍋は大正末に開発され戦後に広く普及した

👉 これに「荒神帝・秋葉神社のお札」が加われば「おくどさん」オールキャスト。

👉 タイル張りの「くど」は大正時代になってから普及



**ところで!** □ 木知原で「台所」と言えば部屋を指し、食事を準備する空間を「お勝手 or お勝手場」と言っていたように思うが?

👉 **勝手場** の語源にも諸説あり面白い。一端を紹介。

- 👉 江戸時代の役職名「勝手方」は、藩の財務・会計を担当した重要な役職。つまりお金を扱う場所⇨お金が動く場所が台所であることから勝手場。
- 👉 使用人が食事・談笑など唯一“勝手にきく場所”で「お」は丁寧語。
- 👉 弓の弦を引く右手を「勝手」(自由に動く・都合よく動く)と呼ぶことから。
- 👉 勝手は「糧(かて)」が転じた表現。・・・等々が見られる。あなたの語源説は?



👉 「台所」や「勝手場」は食に関わる空間の歴史を感じる懐かしい呼称で安らぎを感じる。

※昔を偲ぶ言葉遊びと思っただが、「おくどさん」ならぬくどくど号になってしまいました。ゴメン!